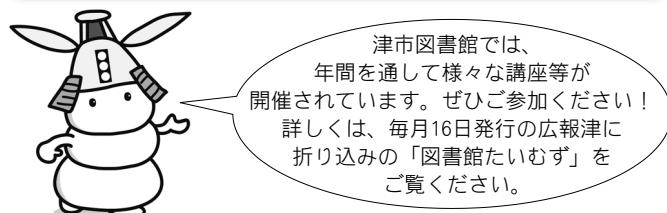


ようこそ 図書館へ

第12号

2012年4月
津市図書館



おもな内容

- ・図書館利用者アンケート (P 2 ~ 4)
- ・知ろう私たちの郷土 (P 5)



津市図書館ホームページ
<http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp>





ご協力ありがとうございました

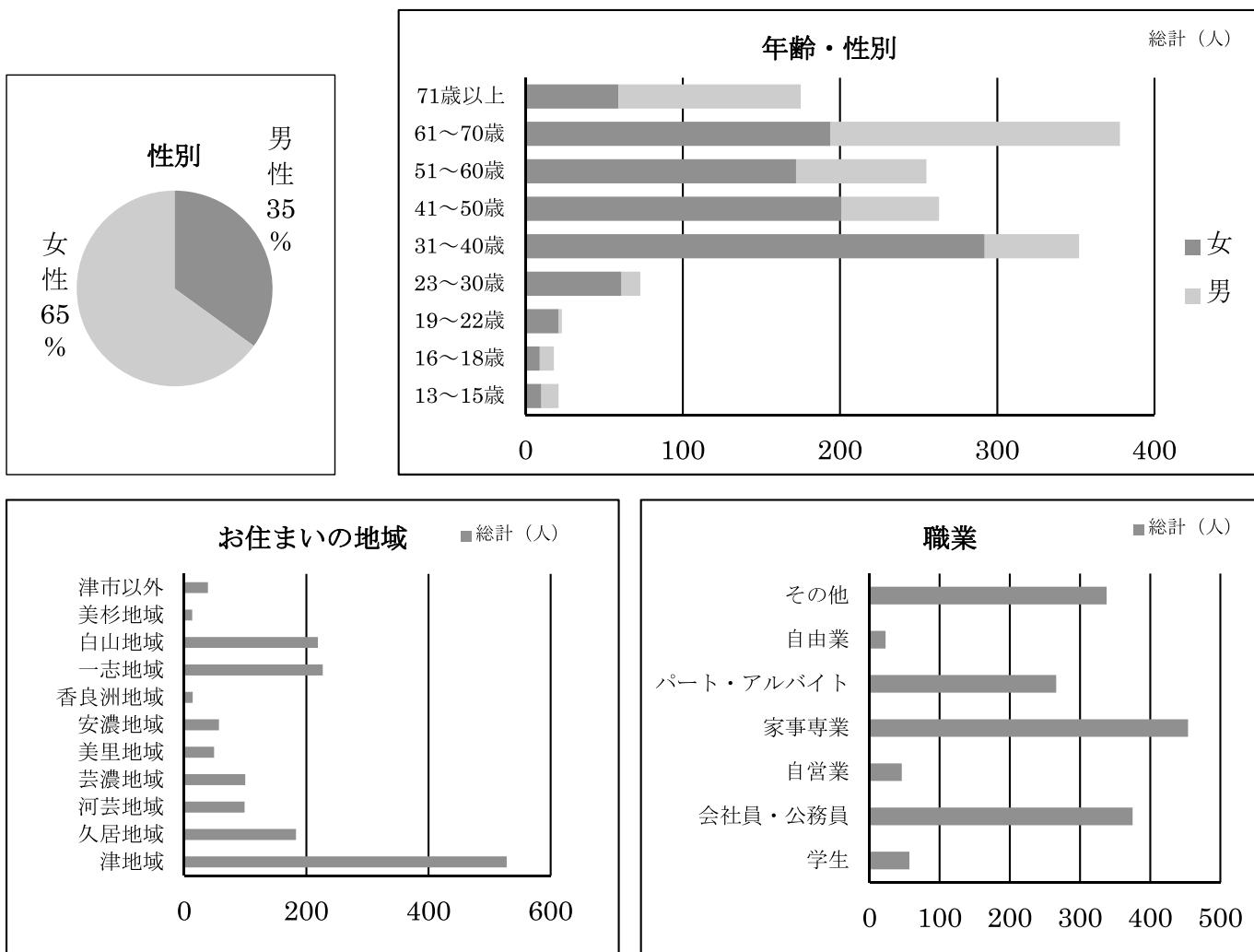


図書館利用者アンケートの結果報告

津市図書館では平成23年12月1日（木）～15日（木）の15日間、来館された利用者の皆さんに図書館利用者アンケートを実施しました結果、合計1,574人の方にご協力いただきました。その結果の一部を紹介させていただきます。

アンケートの内容として ①回答者の性別・年齢・地域・職業、②利用している図書館と頻度・利用時間・曜日、③サービスの満足度等についてのご意見をお伺いしました。

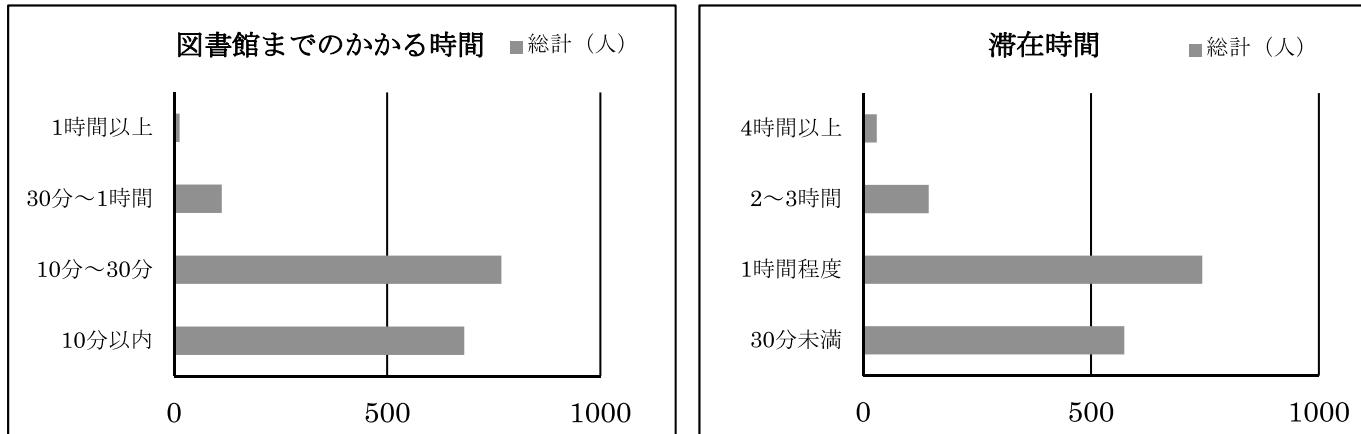
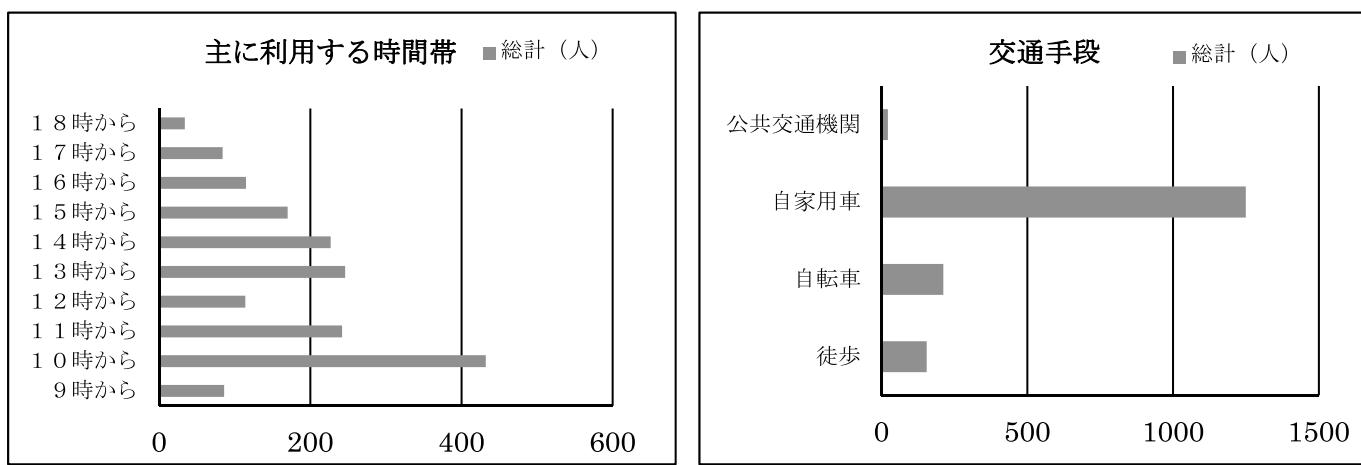
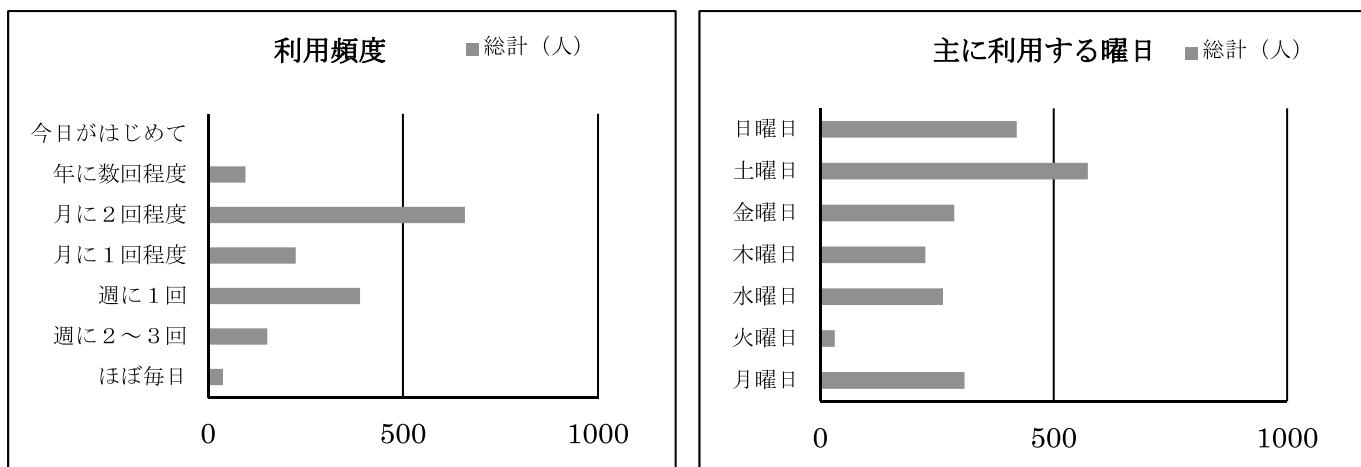
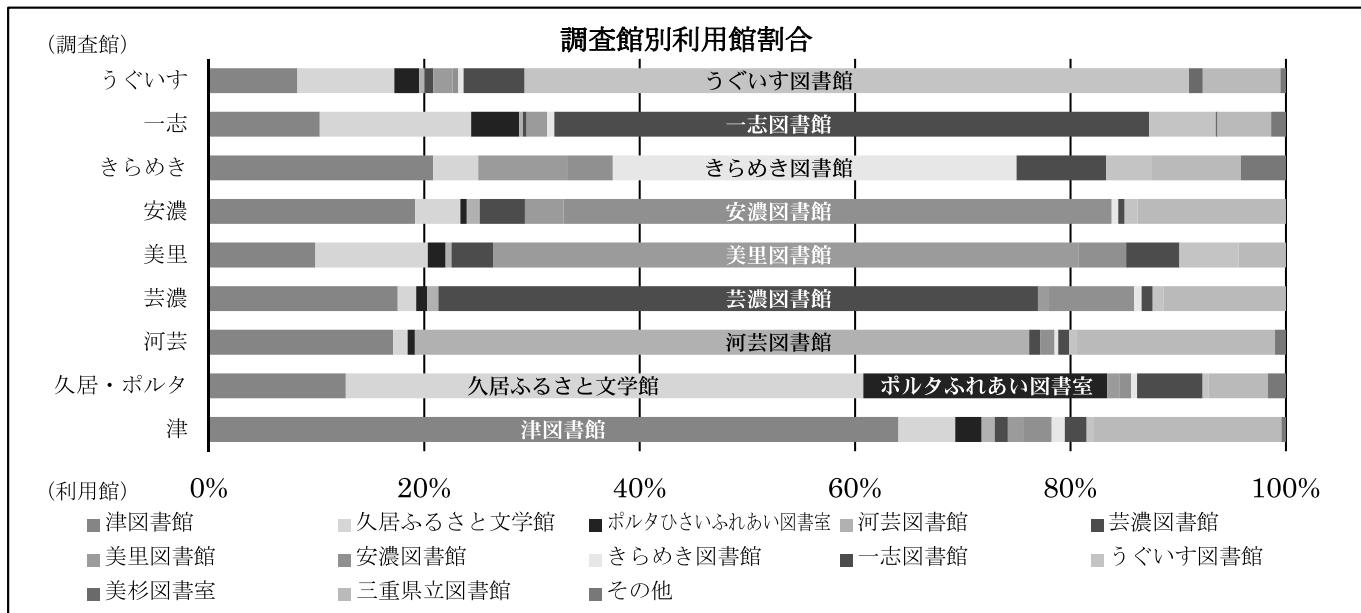
①回答者の性別・年齢・地域・職業

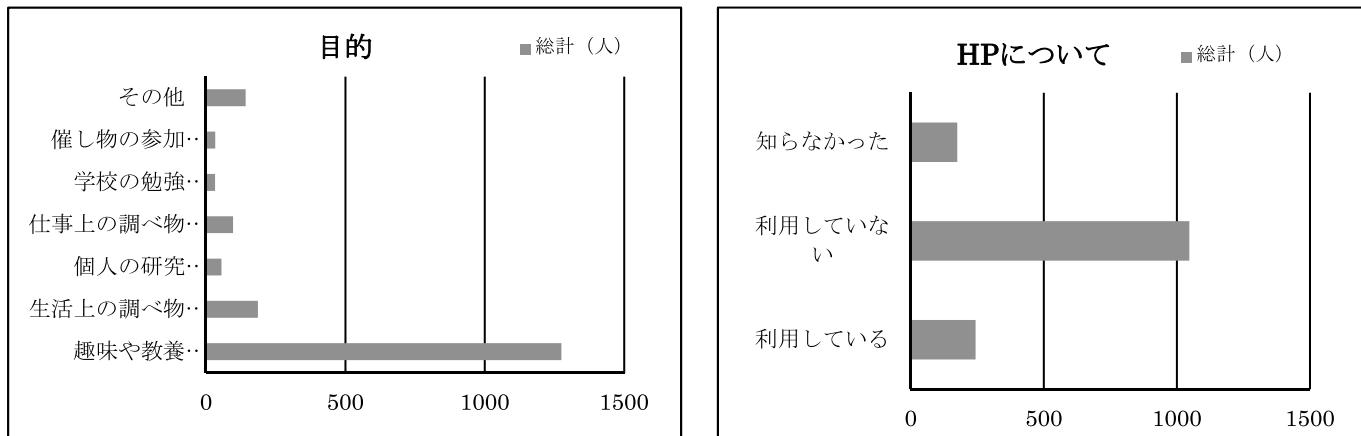


今回の調査では女性が男性の約2倍弱、利用年代は60歳代・30歳代の利用が多く、50歳代から70歳代の利用が全体の半数を占めています。年齢別の男女比は中高生はほぼ同じ割合ですが、19歳から60歳までは女性の利用が多くなっています。

②利用している図書館と頻度・利用時間・曜日

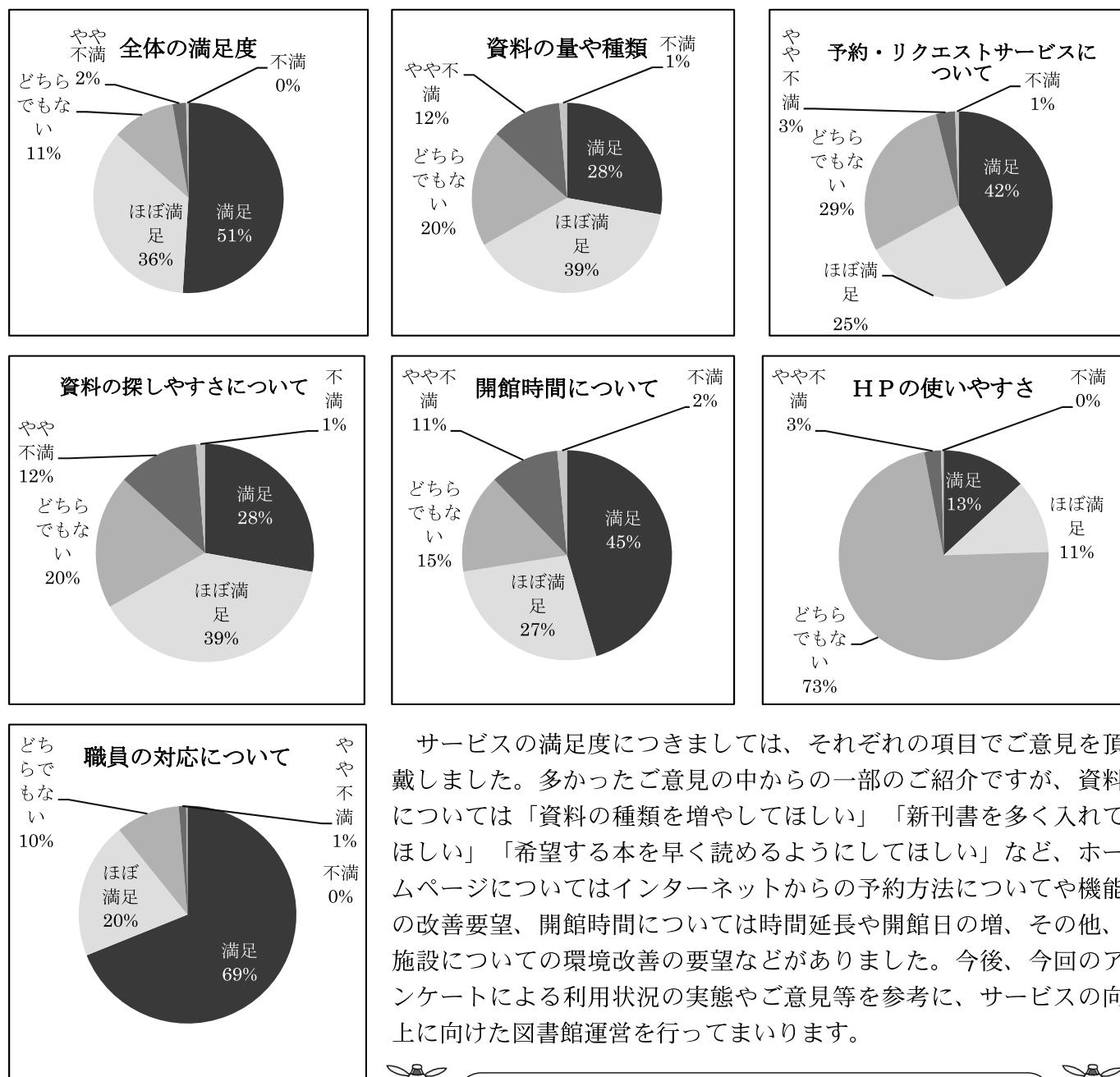
利用館については、今回のアンケートにご協力いただいた館の回答人数に比例しておりますが、近くの図書館のご利用のほか津図書館・三重県立図書館も併せてご利用される傾向がみられます。





*ホームページについては、「知らなかつた」・「利用していない」の回答が約83%と多く、窓口対応の利用者が多いことが伺われます。しかし、PRの必要性とともに改善に向けての方策を考えていきたいと思います。

③サービスの満足度について



これからも図書館をぜひご利用ください。



知ろう私たちの郷土

ゆうち
勇智と歌人の伊勢平氏・平忠盛 川上裕子



いしどうろう
石灯籠の近くで腕
を伸ばしている平
忠盛と、襟足を捕
まれ大きくのけぞつ
ている一人の僧。

えほんぶゆうはなよろい
『繪本武勇花鑑』

これは、津市津図書館所蔵の特殊コレクションの一つである「稻垣文庫」の中の『繪本武勇花鑑』1~3(72-8~10)（（ ）内は資料の請求番号）の第1巻に描かれている場面である。この作品は宝暦六（1756）年に出版された古今武勇の者についてその武勇を表す場面を一人につき一場面を描いたものである。これは『平家物語』の「祇園女御」の中の、白河法皇が愛人の祇園女御の許に通う時に八坂神社の灯籠の所で忠盛が化け物を捕まえた（実はこの時、化け物に間違えられたのは灯籠に火を灯そうとした僧であった。それに気づいた忠盛が彼を捕まえただけで害を与えることなく、祇園女御と忠盛は夫婦となった。一説には、彼女を清盛の母とする）という話の一場面を描いたものである。

ここに描かれている平忠盛は永長元（1096）年～仁平三（1153）年の人で、父である正盛について白河法皇・鳥羽上皇の寵愛を受け、檢非違使や備前守などの役職を歴任した。長承元（1132）年に得長寿院を造進した功績によって、武士としては初めて内昇殿が許された人物である。そして、平清盛の父でもある彼は、當時伊勢国を中心に勢力を誇っていた伊勢平氏と呼ばれる一族である。

伊勢平氏とは、桓武天皇の子孫・平惟衡が伊勢守に任命され、その子孫が代々伊勢・伊賀国を中心に勢力を持っていた事に始まるとする一族で、安濃津三郎と称した平貞衡とその子清衡、その後一代（正忠）を挟んで貞衡の甥である平正盛とその子忠盛と続いたとされる。彼らと伊勢の関係については、例えば江戸時

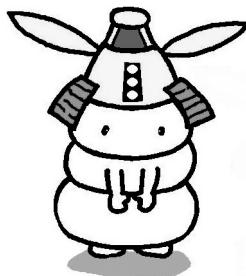
代に出版された『伊勢参宮名所図会』の中の「津」の紹介で、「安濃津三郎平貞衡より平氏數代の住居なり」（『伊勢参宮名所圖會』第三巻／橋本文庫L 29-15）と伊勢平氏について触れている事からも伺える。その惟衡から見て五代目に当たる彼は、一族の中でも特に津と関係が深い人物である。津市産品付近で生まれたとされ、その近くに忠盛塚（父正盛が忠盛の胞衣を埋めたとされる塚）があり、江戸時代の地誌である『勢陽雜記』などでも「平氏忠盛の誕生所」（『勢陽雜記』第四巻／橋本文庫L 21-4）と言い伝えている所であると書かれている。

彼は大治四（1129）年の山陽・南海の海賊討伐などから武功に優れた人物とされている。その一方で、殿上の闇討の話（忠盛の昇殿を快く思わない殿上人による闇討の計画を知った彼は「我レ右弼ノ身ニアラズ。武勇ノ家ニ生レテ…」（『平家物語』卷一／橋本文庫91, 3-21）と言って臆することなく豊明の節会に参加した。その時、主人を心配した部下が武装してお供をし、持参した刀も銀箔を塗った木刀であった事から武士の鑑と天皇に褒められた話）や前出の「祇園女御」で見せた勇智と、彼の詠んだ和歌が『金葉和歌集』以降の勅撰和歌集に17首ほど収録され、彼自身の家集である『平忠盛集』が編まれるなどの歌人としての才能も持ち合わせていた。

このように、忠盛は武士としての勇智と歌人としての才能を兼ね備えた人物であり、それによって平家繁栄の基礎を作った一人であるとされている。

主な参考文献

『津市史』第一巻（梅原三千・岡田重嗣著 津市役所 昭和34年4月）、『国史大辞典』第8巻（国史大辞典編集委員会 吉川弘文館 昭和62年10月）、『日本古典文学大辞典』（日本古典文学大辞典編集委員会 岩波書店 昭和59年7月）、『日本説話伝説大事典』（志村有弘・諫訪春夫編 勉誠出版 平成12年6月）



休館日・開館時間などのご案内

※下記の休館日のほかに特別整理期間（年1回、14日以内）や、臨時に休館することがあります。詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。

津市図書館HP <http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp>

携帯版HP http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/cgi-bin/Sopcstop.sh?p_mode=3



携帯電話QRコード

館名	開館時間	休館日
津図書館 ☎229-3321 〒514-8611 西丸之内23-1 津リージョンプラザ内	平日 9:00~19:00 土・日曜日、祝・休日 9:00~17:00	
ポルタひさいふれあい図書室 ☎254-0464 〒514-1118 久居新町3006 ポルタひさいふれあいセンター内	平日 10:00~21:00 土・日曜日、祝・休日 10:00~18:00	火曜日 毎月最終木曜日 年末年始（12月28日～1月4日）
芸濃図書館 ☎265-6004 〒514-2211 芸濃町榎本6824 芸濃総合文化センター内	9:00~17:00	
安濃図書館 ☎268-5822 〒514-2326 安濃町東觀音寺418 サンヒルズ安濃内	10:00~18:00	
久居ふるさと文学館 ☎254-0011 〒514-1136久 居東鷹跡町2-3	平日 9:00~18:00 土・日曜日 9:00~17:00	
河芸図書館 ☎245-5300 〒510-0314 河芸町浜田782	10:00~18:00	
美里図書館 ☎279-8122 〒514-2113 美里町三郷51-3 美里文化センター内	9:00~17:00	火曜日 祝・休日（土・日曜日に当たる場合は開館） 毎月最終木曜日 年末年始（12月28日～1月4日）
きらめき図書館 ☎292-4191 〒514-0314 香良洲町2167 サンデルタ香良洲内	9:00~17:00 (7・8月の平日は18:00まで)	
一志図書館 ☎295-0116 〒515-2521 一志町井関1792 とことめの里一志内	10:00~18:00 (7・8月の平日は19:00まで)	
うぐいす図書館 ☎262-5000 〒515-2602 白山町二本木1139-2 白山総合文化センター内	平日 10:00~19:00 土・日曜日 9:00~17:00	
美杉図書室 ☎272-8092 〒515-3421 美杉町八知5828-1 美杉総合開発センター内	9:00~16:30	土・日曜日 祝・休日 年末年始（12月28日～1月4日）

本の返却は期限内に

ようこそ図書館へ 第12号

発行日／平成24年4月1日 編集及び発行／津市教育委員会 津市津図書館
三重県津市西丸之内23番1号津リージョンプラザ内 ☎(059) 229-3321